



大阪維新の会 大阪府議会議員

中司宏

なかつか ひろし

このまちの未来を守るために――

「副首都・大阪」をめざして、松井府政のセカンドステージが本格始動する中、府議会の9月定例会が12月20日までの日程で開催されています。大阪都構想を実現して大阪が本来の都市力を取り戻し“再起動”すると連動して、中核市枚方をどう発展させていくのか、これからが正念場です。

枚方市は今、市役所・市駅周辺整備と、新名神、京阪高架化など交通ネットワークの確立、そして子育て支援をはじめ福祉の再構築など様々な課題に直面しています。今こそ、未来を見据えた都市ビジョンをしっかりと描き、大胆な発想で果敢に実行していかなければなりません。

私は、大阪維新の会府議団の一員として、松井知事を支える立場から質問や提言を通して政策立案などに携わり、一方で枚方市の施策推進に向けて府との強力なパイプ役をつとめ、府政・市政の在り方をチェックし、市民生活を守るため地域に密着した身近な問題解決にも奔走しています。

おかげさまで、今夏の参議院選挙では、大阪選挙区で2議席を確保し、国政でも維新の会が躍進することができました。国、府、市それぞれに課題が山積する厳しい時代にあって、生まれ育った愛する枚方の未来を守り、大阪の明日を切り拓いていくため、たゆまぬ改革と実行力ある政治を貫いてまいります。

中司宏 なかつか ひろし プロフィール

昭和31年3月 枚方市に生まれる
うみのほし幼稚園、枚方市立殿山第二小学校、枚方市立第三中学校、大阪府立寝屋川高等学校、早稲田大学第一文学部を卒業

昭和54年4月 産経新聞社に入社
京都支局を経て東京本社政治部記者
中曽根首相番記者、参議院担当、自民党田中派・竹下派担当などを歴任

昭和62年4月 大阪府議会議員初当選(自民党公認)以来連続2期
文教委員長、自民党枚方市支部長などを歴任

平成7年4月 枚方市長に初当選(39歳)12年間市長として市政の発展に努める
この間、大阪府市長会会長(2期)、全国青年市長会会長、環境自治体サミット代表、道路整備促進期成同盟会全国協議会会長などを歴任

平成21年12月 柏原市まちづくり戦略会議議長として事業仕分けなどを担当(平成22年11月まで)

平成27年4月 大阪府議会議員当選(3期目)
現在 総務常任委員会委員
大阪維新の会府議団幹事
大阪府議会私学振興議員連盟会長
大阪府議会日露友好親善議員連盟会長

府議会9月定例会～二重行政の解消へ

9月27日～12月20日

府議会9月定例会は、前半が9月27日～10月25日、決算審査を挟んで後半が12月9日～20日の日程で開催。前半は9月30日～10月7日に本会議での代表質問及び一般質問、12日～21日には各常任委員会を開き、提案された約247億円の一般会計補正予算案や条例案等の審議を行います。



所信を述べる松井知事

とくに今議会では、府と大阪市の二重行政の解消に向けて、港湾や大学、研究所の統合案件や、2025年大阪万博の開催、大阪都構想実現や府内消防組織の一元化への課題整理など、大阪の基盤整備に係わる重要案件について論議を深めていきます。

松井知事は、9月定例会の冒頭、豊かな大阪の実現に向けた主な取り組みについて、▽リニア中央新幹線の早期全線開通を働きかけ、3大都市圏の西日本の核として存在感を発揮する▽副首都大阪の確立をめざし2020年をめどに制度など政策基盤を整え、経済成長への取り組みも進める▽副首都化への中長期的取り組み方向について、今議会での論議を踏まえて年度内に成案化する▽まず府・大阪市の機能統合を進め、それぞれの能力を発揮することにより都市機能の強化を図る▽府立大学と市立大学、府立産業技術総合研究所と市立工業研究所、府立公衆衛生研究所と市立環境科学研究所を統合する▽大阪湾の競争力強化へのステップとして府市で港湾委員会を設置し、機動的・効率的な港湾運営を行う▽2025年に「人類の健康・長寿への挑戦」をテーマに大阪万博を開催し、大阪・関西の経済発展につなげる一などの考えを述べました。

府立公衆衛生研究所を視察

6月8日

大阪市立環境科学研究所との統合が決まった府立公衆衛生研究所を視察しました。府、大阪市の二重行政解消の一環で、5月定例会で事業統合と地方独立行政法人化への推進事業費が可決、9月定例会では統合後の施設の在り方や具体的な統合手順などが示されました。感染症や食中毒などの健康危機事象に迅速に対応し府民の命と健康を守ることはもちろん、めざす副首都・大阪に相応しい最先端の研究所としての責任と役割を果たす新たな施設となるよう、今後の取り組みを進めていきます。



東京都庁・豊島区役所を視察

9月5日～6日

大阪維新の会府議団総務部会で、小池知事が就任したばかりの東京都庁と、再開発事業でマンションと合築整備した東京・豊島区新庁舎を訪問しました。都庁では、▽東京都が2020年東京オリンピックに向けて策定した「東京都長期ビジョン」▽都庁舎の長周期地震対策▽首都直下型地震対策について担当部署から説明聴取のあと意見交換。豊島区役所では、新庁舎・「としまエコミューゼタウン」の整備について説明を受けた後、屋上庭園「豊島の森」、区議会議場、総合窓口サービスなど最新の施設を視察しました。昨年枚方市議会からも訪問しており、枚方市役所並びに枚方市駅周辺の再整備で大いに参考となる事業手法でした。



枚方市の長年の懸案だった淀川新大橋(仮称)が府の都市整備中期計画に位置付けられ、概ね10年後の完成をメドに具体的に動き出しました。私が府議会一般質問で取り上げたのが平成2年9月定例会で、当時の土木部長の答弁は「(都市計画決定されている牧野高槻線の橋梁について)早期に事業化が図られるよう努める」。それから四半世紀の歳月が流れましたが、道路建設は、それほど息の長い話なのです。引き続き市長として要望を重ねた結果、牧野高槻線を新名神高速道路の高槻へのアクセス道路として位置づけることで、枚方・渚地域での新大橋の整備が決定されたのです。ところが、国の事業見直しの中で新名神の八幡一高槻間などの整備が凍結され、新大橋の建設も中断。懸命の要望活動による再度の見直しで新名神の同区間が復活し、それに伴って架橋計画も復活しました。



新名神と牧野高槻線のルート

こうした経過を経てやっと事業が動き出したのは、都市計画決定に始まって連綿と積み重ねられた国、府、市全ての関係者の努力のたまものであり、総合力の結果といえます。市の重点プロジェクトである枚方市駅周辺エリアの再整備も同じです。行政や議員だけでなく、まちづくりに関わる人々が垣根を越えて力を結集しなければ、一朝一夕に進むものではありません。そうした考えに立ち、枚方の未来につながるプロジェクトに力を尽くしていきます。

「副首都・大阪」の確立に向けて～中司宏の取り組み～

昨年度は府議会健康福祉常任委員会で府民の健康と福祉施策の充実に努めましたが、平成28年度は総務常任委員会に所属し政策・企画・財政など府の中核部門を担当するとともに、議会運営委員会委員、府議団幹事として「副首都・大阪」の確立に向けて、成長戦略の推進、二重行政の解消など課題解決に力を注いでいます。一方、今年度から府議会私学振興議員連盟の会長に就任、教育において私学の果たす役割が大きくなる中、私学の振興に努めていきます。

健康福祉常任委員会 中司宏 質問（抜粋）

少子高齢・人口減少が進む中、課題を解決するキーワードは「協働」です。きめ細かなサービスを展開するには、府がコーディネート役を果たし、各市町村及び関係機関、事業者、府民・市民が「協働」で新たな仕組みをつくっていかねばなりません。そうした観点から、昨年に続いて2月定例会で質問しました。（詳しくは府議会のHPをご覧ください。）



子育て世代包括支援センターの推進について

Q 妊娠・出産から子育て期にわたり切れ目なく相談や支援を行うワンストップ拠点としてスタートした「子育て世代包括支援センター」（日本版ネウボラ）は、地域で妊産婦やその家族を支える取り組みとして期待されている。しかし、府内では枚方など実施自治体がまだ少ない。担い手となる保健師・助産師の確保をはじめ「協働」による支援体制の確立が重要だが、支援策は？

A 府内の全市町村を対象に事業説明会を実施するとともに連絡会議を設けてノウハウの共有も行っている。保健師・助産師の本事業への積極的な活用は重要であり、母子保健コーディネーター育成研修や産後ケアの研修、潜在助産師の復職に向けた研修をはじめ、専門職の人材育成を継続実施するなど、市町村での拠点整備が進むよう積極的に支援していく。

児童虐待対策の充実について



中央子ども家庭センター

Q 府内で虐待に関する相談が急増するなど児童虐待問題が深刻化しており、体制強化が必要だ。子ども家庭センターのマンパワーを重篤事案に集中特化させ、比較的軽度な事案は外部委託で対応する方針と聞か、効果的な役割分担が行えるのか？

A 子ども家庭センターでは、虐待通告を受理した後、重症度などを見立てるアセスメントを行った上で対応している。深刻な通告については、一時保護の対応を前提にセンター職員が訪問し、比較的軽度と見込まれる事案については、子育て相談に実績を有するNPO法人等が保護者からの相談に応じ必要な支援につないでいく。

Q 虐待のリスクや程度を判断するには高度な知識と専門性が必要であり、人材育成や専門性の確保についてどう考えるのか？

A 今後、受理した時点で子どもの安全や虐待リスクを重点的にアセスメントし、保護の必要性を見極める新たな体制を構築するとともに、専門性を高め迅速かつ確かな虐待対応が可能な人材の育成に努める。

高齢者にやさしい地域づくりの推進について

Q 認知症や一人暮らしの高齢者の様々な課題に対し、地域力を高め「協働」で見守りなどを行う仕組みづくりが必要だ。府がコンビニチェーンと協定した「高齢者にやさしい地域づくり推進協定」は協働の仕組みづくりのモデルといえる。電鉄など公共交通にも広げていくのが望ましいが、締結後の状況と成果は？

A 羽曳野でコンビニ店員が振り込み詐欺を未然に防いだ事案があった。準備が整った市町村から順次協定に基づく事業を実施していく。電鉄各社については現在調整を進めており、さらにバス・タクシーも協定に関する調整を図っていく。

Q 派出所の警察官、消防署員、消防団員の認知症サポーター研修受講については？

A 府警本部は独自のサポーター養成講座を実施し約4600人を養成。消防関係は未実施の市町村もあり市町村に講座の開催を働きかけていく。

健康福祉常任委員会ではさらに、

無届け介護ハウスへの対策について

認知症カフェの設置促進について

成年後見制度と市民後見人の取組みについて

生活困窮者自立支援制度の推進について

「ママサポートタクシー」など民間事業者の取組みについて

主に「協働」の観点から質問しました。

健康福祉常任委員会所管に関する主な訪問・視察先（平成28年2月～）

府立枚方支援学校・むらの高等支援学校、中河内救命救急センター、大阪発達総合療育センター（重症心身障がい児施設）、枚方・はるか助産院、交野・岸本助産院、府立公衆衛生研究所、枚方・樋之上、楠葉地域子ども食堂、枚方市総合福祉センターなど



府立枚方支援学校・むらの高等支援学校

母子連が議長・府議団に要望

9月28日

府が検討している福祉医療費助成制度の再構築について、対象となる府母子寡婦福祉連合会、大阪市ひとり親家庭福祉連合会、堺市母子寡婦福祉会の役員が、今井豊府議会議長に「医療費助成制度の現状維持を求める要望書」を手渡しました。



8万8千人の署名を添えた要望書は、「苦しい生活実態の中で助成制度は必要で、自己負担が増額されると受診をためらうことになり、子どもの貧困対策に逆行する」との内容。これまで維新の会府議団でも要望を受けており、趣旨を踏まえ要望実現に向けた対応を約束しました。

私学の振興について意見交換

7月14日、8月9日

府議会私学振興議員連盟役員と私立中学校高等学校連合会・私立学校振興協会役員との意見交換会を行いました。大阪府では現在、公立・私立ともに高校授業料の無償化を進めるとともに、教育庁を設置するなど教育の改革を進めています。



意見交換会では、私学側から公私間格差の是正など「大阪の教育力向上を担う私学の振興に関する提言」をいただくとともに、私学の現状と課題、私学振興の充実について意見が交わされました。連盟を通じ、超党派で大阪の教育力のさらなる向上に取り組んでいきます。

「こうけんネットワーク」～成年後見制度の普及・支援活動



認知症予防をテーマに講演



街かどデイハウスの出前セミナー

枚方市では今年度から市民後見制度の養成・活動支援事業がスタートしましたが、認知症の急増にもかかわらず、権利を守る成年後見制度への理解はまだ十分とは言えません。

そうした中、成年後見制度の普及などを目的にボランティア団体「こうけんネットワーク」を立ち上げ、私も副理事長として携わり活動を展開しています。

6月10日の総会で府立精神医療センターの岩田和彦医師の認知症予防に関する講演会を行ったのははじめ、これまで府や市の担当職員、行政書士、司法書士、税理士など幅広い講師によるセミナーを約30回実施しました。この他、訪問による出前セミナー、社協フェスティバルでの相談コーナー、会員交流ハイキングなど成年後見制度の普及や介護予防につながる様々な取り組みを進めています。

今後も、議会活動や「こうけんネットワーク」の事業を通じて、より一層成年後見制度への理解が深まるよう努めます。

東日本大震災復興支援チャリティコンサート開催



津波の流木から生まれたヴァイオリンを演奏



「花は咲く」を合唱し心をつなぐ



「命のヴァイオリン」の音色を聴く子ども達

東日本大震災の津波の流木から生まれたヴァイオリンによる「東日本復興支援チャリティコンサート」を7月10日に枚方市民会館大ホールで開催し、実行委員長をつとめました。ヴァイオリンは津波で流されたマツとカエデで製作され、心臓部の「魂柱」には奇跡の一本松の幹の一部が埋め込まれています。

千人のヴァイオリニストが各地で弾き継ぎ、鎮魂の祈りを捧げ、地震への備えと助け合いの心を伝えるプロジェクトの一環で、この日の奏者・古味亜紀さんは428人目。コンサートの収益は全額義援金として岩手・陸前高田市と熊本・西原村に送りました。また、子どもたちにもその思いを受け継いでもらおうと、市内の小中学校4校でもコンサートを行いました。

一方、4月には野菜や米、味噌などの救援物資を募り、熊本の被災地に届けていただきました。

今後も、復興支援や防災意識の高揚につながる活動に継続して取り組んでいきます。

「第8回政経フォーラム」開催



大阪観光局の溝畑宏理事長を講師にお招きし、北大阪政経懇話会「第8回政経フォーラム」を5月30日に開催しました。

テーマは「関西・大阪を元気に」。

講演の中で溝畑氏は、▽一人ひとりの地域を愛する心が大切であること▽各地域の持つ資源に付加価値を付け地域ブランドとして発信すること

▽ヒト・モノ・カネを呼び込み、雇用創出など持続可能なまちづくりにつなげること—など、元気な大阪を取り戻すためのビジョンについて熱く語り、観光が単なるイベントではなく成長戦略の大きな柱であることを強調されました。

また、浅田均・大阪府議会議員（現参議院議員・日本維新の会政務調査会長）から、大阪の成長戦略や副首都化についての話がありました。

歴史文化をはじめ枚方の持つ多様な「資源」を活用した魅力づくりやブランド創出など、副首都大阪のビジョンと連動した今後の枚方の成長戦略に大いに参考となりました。

ボランティア活動